**令和 6 年度 江南市高齢者福祉審議会
会議録**

日時	令和 7 年 2 月 4 日（火） 午後 1 時 3 0 分から
場所	江南消防署 3 階 講堂
出席者	委員長 峰島 厚 副委員長 石川 勇男 委員 浅野 加津彦 伊神 季美枝 石川 幹男 内田 吉信 有働 奈央 近藤 直樹 鈴木 智子 高橋 正博 土屋 匡史 野呂 美鈴 三宅 哲也 宮道 末利子
事務局	介護保険課、地域ふくし課、ふくし支援課、保険年金課、健康づくり課、各地域包括支援センター
会議の公開	公開
傍聴者数	0 名

【 1 】 会議次第

1 あいさつ

2 議題

- (1) 江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の推進状況について
- (2) 地域包括支援センターの事業計画進捗状況、評価、次期計画について
- (3) 江南市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部改正について
- (4) 地域密着型サービス事業者の公募結果について
- (5) 介護給付費通知送付の廃止について
- (6) 介護予防支援事業者の指定について
- (7) 介護保険料等における基準額の調整について

3 その他

【 2 】 会議経過

(事務局)

それでは、皆様お揃いでございますので、ただ今より令和 6 年度江南市高齢者福祉審議会を始めさせていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

机上に差し替え資料として、正誤表と資料1の3ページ、4ページ、21ページ、22ページ、23ページ、24ページの差し替えをお願いいたします。

また、当日資料として、委員名簿、座席表を配付させていただいております。

事前に配付させていただいた資料を含め、不備等はありませんでしょうか。

なお、この会議につきましては、江南市市民参加条例の規定により、会議録をホームページに公表させていただきますので、委員の皆様には、公表前にご確認をいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

1 あいさつ

(事務局)

次第1、あいさつ。ふくし部長より、挨拶申し上げます。

(ふくし部長) あいさつ

(事務局)

委員長、よろしくお願いいたします。

(委員長)

寒い中、ご出席どうもありがとうございます。ちょっと政局のことをお話しますと、大きく変わりましたが、昨年末の総合経済対策で、高齢者福祉、介護保険に関しては、少し改善がされたところですが、来年度の予算を見ると、原案自体はほぼ従来どおりという形になっております。

恐らく、今後の動きによってどうなるか、状況だろうかというふうに見てます。

まだはっきりしませんけれども、野党の方から、実際には訪問介護の切り下げについての臨時的な対応をなさいという法案と、それからもう一つは、介護とか障害等の職員の処遇改善の法案が出されているところで、ただそれがどういうふうになるのかというのは、多分状況次第であろうと思います。

その意味では、今後どうなるかということでもありますけれども、今回は、それをひとまず置いていただいて、昨年4月から始まりました計画の進捗状況について、計画に対してどうなのかということで、審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、以後の議事の進行は、委員長よろしくお願いいたします。

(委員長)

傍聴者はいないそうですので、早速、議題に入らせていただきます。

次第2の議題に移りますけれども、いくつかたくさん提案がありますので、ご審議の方、よろしくご協力お願いしたいと思います。

2 議題

(1) 江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の推進状況について

(2) 地域包括支援センターの事業計画進捗状況、評価、次期計画について

(委員長)

最初に、(1)と(2)ですね、(1)の江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の進捗状況について、さらに、(2)の地域包括支援センターの事業計画、進捗状況、評価、次期計画について、これについて一括して、事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

毎年度あがる議題ですので、さらに事前に資料を配付させていただいておりますので、資料の概要のみ簡単に続けて説明をしていただきます。それでは、事務局のほうから説明をお願いします。

(事務局)

《資料1、参考資料1-1～2》 説明

参考資料2-1 地域包括支援センターの設置・運営等の状況の5ページの地域との連携でございます。上から6行目、北部包括の7月24日、中般若民協とありますが古知野北民協とお手元の資料を修正願います。

《資料2-1～6、参考資料2-1～2》 説明

(委員長)

以上でよろしいですね。

それでは質疑に入りますけれども、質疑については、スムーズにさせていただくということで、(1)のものと(2)のものに分けてという形でさせていただきます。

それでは(1)江南市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の進捗状況についての質疑を行いたいと思います。

質疑のある委員は挙手にてお願いします。

(委員)

資料1の6ページですね、保険給付費の推移です。令和3年度から令和6年度の第8期の計画から第9期の計画の6年度までの推移かと思いますが、その合計を見てみますと、令和3年度におきましては、合計の計画値が72億1,416万9千円で、実績が68億5,493万5千円、右の方に4年度、5年度と書いてありますけど、いわゆる乖離が、令和3年度ですと約3億5,923万4千円、次に令和4年度になりますと6億2,051万円、次に令和5年度になりますと6億7,056万1千円と乖離が出ている訳ですね。6年度になるとどうなるかということで、介護給付費と徴収する介護保険料側との兼ね合いがあるんですね。第9期に関しましては、結局徴収した分をある程度滞留しましたよね。介護保険料を若干調整されましたね。実際、余剰金じゃないですけども、それに近いもの、計画値と実績との乖離が出ている。この介護保険事業計画にとっては第9期の計画の80ページに出ているんですけど、第9章介護保険事業費の見込、そこにはまず、最初に人口推計ですね、それから2番目が要介護認定者数の推計、そして3番目が介護保険サービス利用者数の推計、次にサービス事業量の推計、そして最後に介護保険給付費の推計が出てくる訳ですね。私は、サービス利用料の推計値の見方がちょっと甘いんじゃないかという気がいたしました。もう少ししっかり詰める必要があるんじゃないかというふうに感じられますが、その辺に関しましては事務局はいかにお考えでしょうか。

(委員長)

これまでの実績からして見込みとの差に乖離があると、その辺はどこにあるのかということでご提案をいただきましたけど、事務局のほうでもしご意見があれば、どうぞ。

それと、第9期計画の令和6年度も、どれぐらいになるのかというふうな見込はあるのか。実績は取りあえずゼロになるだけなんですけど、見込としては、同じような傾向になるのかどうかということなんですけど。

(事務局)

8期計画の数字の乖離についてなんですが、コロナの流行により、令和3年度、4年度と、居宅サービスには影響が出ておりました。

また、地域密着型サービスについても、看護小規模多機能の事業所の1施設整備計画を持っておりましたが、その整備が出来なかったことにより、給付費が低く抑えられたところがあります。

また、給付費を算定するに当たっては、国の見える化システムを活用しておりまして、全国のほぼ全ての自治体が、これを活用することによって、多くの自治体で、保険料が余るといふか、余剰金が発生するようなことが起こっております。国からも今回、9期計画をつくるに当たって、基金を大きく取り崩して保険料の上昇を抑制するようというふうなことで、江南市においても7億何千万ありましたが、そのうち6億5千万円を使って、保険料を抑制するという形で、500円以上、保険料の抑制に努めたところでご

ざいます。

次の9期計画についてなんですけども、6年度が今始まっている中、先ほど要支援者が増えているということで、予防給付費については大きく計画値に近づいた、ほぼ同じぐらいの金額にはなってるんですが、要介護1以上のサービス給付費については、やはり計画値までは至らないところがあって、また今年度も給付費と保険料を比べると、保険料が少し余っていくような状況になるのではないかとというふうに推測はしております。

(委員)

コロナの影響がね、大きかったということは理解できます。それで隣の7ページを見てもですね、この地域支援事業費の推移に関しましても、合計に関しましては、令和3年度、4年度、5年度と乖離がかなり出ているんですね。それと同時に20ページをちょっと見ていただきたいんですけども、いわゆる令和6年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の直近の評価結果ですね。これは厚生労働省が見える化の中で、PDCAのシステムの中で明らかにしたんですけど、江南市独自政策がきちんとあればいいですけど、例えば(1)アに関しましては400点満点中144点、それから介護保険保険者努力支援交付金は、400点満点中197点、上に関しましては約36%、下に関しては約49%、半分を切っているんですね。私、愛知県のデータを調べましたところ、江南市の144点は、愛知県は262点、そして、下に関しましては、努力支援交付金につきましては江南市が197点、愛知県に関しましては281点、江南市の合計341点に対して、愛知県は543点、平均がですよ。やっぱりどう見ても低いんですね。全国レベルで調べましたら、全国平均516.1点で、大体全国平均で64.5%となっている。江南市は42.5%で明らかにいろんなことを勘案しても、この達成率はちょっと低いんじゃないですかね。やっぱりこれは客観的データですから、ある程度は信憑性がある訳ですね。こうやって見た時に、私は思うんですけど、やっぱりPDCAサイクルというのはplan、do実行、check、それからaction、今の状態は、PDCAサイクルではなくてPCサイクルなんですよ、分かりますか。planを立てて評価しているだけ。そこにですね、大事なdo実行と改善がなされていないんですよ。これは非常に大きな問題です。こないだ亡くなられたんですけど、失敗の本質というのを書いている野中さんが言っている、やっぱり計画をたてて、評価しているだけではだめなんですね。そこをしっかりとね、どういう問題点がね、どうしたらいいのかっていうのを例えば優先順位をつけて、いわゆるプライオリティ(priority)ですね、そこを改革していかななくてはいけない。やっぱり行政サイドとしては、私は思っているのは、日々実務に追われている。でもね、やっぱりトップに立つ人はしっかりと全体を俯瞰して、あるいは鳥瞰して、その流れをしっかりとですね、どれが必要かというものをね、しっかりと見極める必要がある。この辺に対して、総合的にふくし部長。答弁をお願いします。

(委員長)

どうですか。

(事務局)

はい。ご意見ありがとうございます。

委員がおっしゃられるとおりで交付金関係ですね、この二つの交付金の点数があたかも、県下見渡しても、非常に低い位置におるというのは、もう長年の課題だというふうにはもちろん感じております。

ずっと、何とかこの点数を少しでも上げられないかということでいろいろ検討もしておりますけれども、なかなか財政的な面とかもございまして、もう一度ですね、言われたように、何とかこのペースをもう少し上げられないだろうかというところと、それから、これがおっしゃられるとおりに、交付金の額に関わってきますので、そういったところももう一度、強くですね財政サイドに押し出しながら、少しこうしたところのもう少し点数が上がるような手を打っていききたいなというふうに考えておるところでございまして、ご理解をよろしくお願いいたします。

それからですね、もう一つ余分な話になるかもしれませんが、先ほど計画値とそれから実績値にかなり乖離がある、これは事実としてございまして、これまで、答弁、ご説明しています。では、この第9期計画、どうなのかっていう話の参考になるかどうか分かりませんが、この間の尾北医師会管内で、この介護保険の関係の市町が集まりまして、2市2町ですけれども、会議がございました。その中で情報交換の中で、犬山と扶桑町はとも9期計画でつくった計画よりも、既に初年度で上ぶれを起こしているという話がございました。大口町につきましても、いわゆるこの2025年問題というやつですね、これの影響が出てきて、予想よりも、高齢化率がさらに進んでっているという話がございました。今、ご説明させていただいている江南ですね、それほどの上ぶれではないんですが、それでもやはり先ほど委員がおっしゃられたように、この9期計画をつくるに当たって、かなり基金を投入しています。保険料を抑制するためにですね、基金を投入します。なので、犬山、扶桑、大口のように、これから計画が上ぶれをしてくるようなことになると、クッションとして利用できる基金は非常に少ない状況でございまして、ちょっと、この今後の動き、2025年問題、それからコロナ影響がなくなったこと、こういった影響がどういうふうにかこの実績として出てくるかというのは、注視していかなければならないというふうには感じているところでございます。以上です。

(委員)

ありがとうございました。部長はじめ、多分実感されてると思うんですよ。私はね、やっぱり2025年問題をいわゆる高齢者が多くなる。それに向かつて実は私のほうも委員として32年のお付き合いで、ずっと計画をたてて関わってきた訳ですよ。32年間ね。そんな流れで見てですね、やはりこれだけのちょっと、他の市町村と比べてですね、すごく見劣りがする現実におちあたってくるのですね、私もすごく責任を感じてますし、

やっぱり皆さんもですね、我々審議会としてのね、責任があると思うんですよね。やっぱりその辺のことを考えてやっていきたいと思っていますね。

資料の中で地域課題協議事項一覧というのが、令和6年度の資料の参考資料1-1にありますね。これを見て一つ思ったのは、中部と南部は入っているんですけど、北部圏域が入っていない。これは何か理由があるんですか。どうして北部が欠落しているんですか。

(事務局)

はい。これは、包括さんの話。参考資料1-1の話をいただいたと思います。委員おっしゃられるとおり、この中には北部圏域の記載はございません。なぜないかというところなんですけども、この地域会合への参加というのは定期的に包括と市役所、並びに社協さんも含めてですね、話し合いを進めているんですけども、各圏域にあがった個別課題から共通する地域課題の種が、市域全域一層課題になるかどうかというところで、こちらはいろいろ書いてるんですけども、その中であがってきたものが正直にはないと、一層課題として提出するものが見当たらないところで、北部はこの中の記載にはございません。

(委員)

今まではずっとこういった形であったんですけども、なぜ今回だけないのかなということで非常におかしいなと思って質問したんです。この辺をしっかりとですね、説明になっていないところがあるんですね。全くないっていうわけじゃないんですよ。これだけ中部も南部もあるんですから。それはちょっと、しっかりとやっていただきたいと思います。

それで私読んでいて、一つ思ったことは、例えば、南部の方ですね、チームオレンジという活動を促進させるために、メンバーが集まり活動について協議する場の継続が必要だと、こういうのがとってもいいことで、いわゆるこの問題点をここでやっぱりしっかりみんなで議論してやるということですね、こういうものをですね、やっぱり進めてほしいということです。それから、あるいはですね、南部の方の、民生委員と町内会・区長との意見交換する場がないという、連携が少ないということがございます。私自身も、区長もやった経験がありますが、実際に民生委員からよく聞きましたからよかったですけども、やっぱり今のこれだけ災害の中で、やっぱりそういう、いわゆる独居だとかね、そういう方を掴む時にですね、民生委員とのそういう絆がですね、非常に重要になってくるんですね。だから、やっぱりこういうものを市としてですね、しっかりそういう場をつくるということ、そういう形で進めるってことを、もうちょっとちゃんと、やっていただきたいなと思います。こういうことの積み重ねがやっぱり重要なことでそういう形をやるシステムを行政が作ってあげることが私は必要じゃないかと思うんですけど、課長どうですか。

(事務局)

先ほどの交付金の関係のところにつきまして、チェックだけでなく、きちんとアクションのほうもやっていくということで、今年度ですけれども、組織再編により介護保険課につきましては、グループリーダーが全て変わったということもございまして、あと、交付金の指標についても国としましては、市のほうで制度をしっかりと理解するということや、同じ指標で評価していくというところで、情報公開していくことを求めているところもございまして、私どもとしましては、昨年度の結果、そして来年度に向けての指標について、一度見直して、どういったことができるか確認し、少しずつ進めていきたいと思っているところです。

やり方につきましては、包括でやっていただいているような、このPDCAサイクルのところも参考にさせていただきながら、少しずつ、市としても努力をしていきたいと考えておりますので、またいろいろとご意見いただけるとありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(委員長)

後半部分の議論にちょっと入っていますけれども、それはそれでまた出していただければと思っていますけど。ただ、一方で、交付金の関係について、点数が、私も愛知県とか全国平均に比べても、かなり低いというところの精査はしていないんじゃないかなというふうに思います。

ただ、国の見える化は、ある面でいうと、全国平均でありますので、その点では、江南市固有の問題がそれで解消されたらまずいというふうで、これがあるから江南市はこう低くなっているというのは、こういうのはちゃんと論理として必要だと思うんで、そこも含めて、ですから合計点だけじゃなくて、その中身は、多分江南市のこういう課題が多分入っているはずですので、実際に進捗状況から言った、江南市が特に遅れているという感じではないんでね、その意味でいうと、江南市固有の課題も見つげながら、どうしても江南市はこういう特徴があるから、点数は低くなるということはやむを得ないというようなことも含めまして、少し、議論、検討を詳細にやっていただきたい。もちろん国のほうに意見を上げるということだってしてもいいと思いますしね。それも含めて、ぜひ検討してほしい。

全般的には、要支援者が増加して、入所が増えているんですね。ですから、必ずしもコロナからの前に戻ってる訳じゃないっていうな状況なんですかね。

(事務局)

はい。コロナ禍以降の状況ですけれども、入所のほうにつきましては特別養護老人ホームについては少し待機者が少なくなっている。制度の変更もあったかと思っておりますけども、入所希望が少し少なくなっているということなんですが、有料老人ホームが最近多

く増えておりまして、そちらの入所のほうが進んでいるということも考えられております。

居宅サービスのほうとしましては、訪問介護とか訪問看護、そういったところが少しずつ伸びているように感じているところでして、そういったところのコロナ禍を挟んでの変化というの注視していかなければいけないなというふうに内部のほうでは話しているところです。

(委員長)

ありがとうございます。その辺も含めて、江南市固有の高齢化の進み方があるだろうと。そこはぜひ押さえて、それが結果として面整備にどう反映するかっていうのは、ある意味、国の考え方と江南市の考え方と必ずしも合わないということも出てくると思いますので、そこは変更していただきたい。ただ全体としては、交付金がそれで決まるっという状況がありますのでね、それは少し工夫してもいいんじゃないかなというところ

です。

(委員)

今回ちょっと初めて出席させていただきまして、資料の見方をちょっと確認したいんですけども、7ページの令和5年度の介護保険料決算に収入未済額というのがあるんですけど、これは具体的にどのような内容なんでしょうか。

(委員長)

よろしいですか。

(事務局)

はい。収入未済額がどういうものかというご質問でしたが、介護保険として、これだけの金額が入ってくるっていうのが調定額になりまして、そこから、実際に入ってきた金額が収入済額になります。その差額が、収入未済額となります。

(委員長)

その内容なんですけど。

(事務局)

内容としましては、保険料について、特別徴収、年金から引かれる方は、100%収入があるんですけども、年金から引かれない方につきましては、普通徴収という形で、納付書とか、口座振替で納めていただくことになるんですけども、そちらのほうで、お支払いができないという事情があって、収入未済額になっているというものになります。

(委員)

これがどんどんたまってくる。この徴収方法とかっていうのは考えないでしょうか。

(事務局)

一応こちらのほうが2年で時効となりますが、徴収する方法としましては、徴収員による訪問徴収とか、あと職員による訪問徴収で、強化月間という形で年2回実施したりだとか、あとは、督促状、催告書の送付などを行って、納付を促しております。

(委員)

はい、ありがとうございます。

(委員長)

これ、介護保険料を5年以上納めてない人っては何れぐらいいるんですか。要するに、保険が使えるなくなる可能性がある人が、人数的にはどれぐらいだっているのは分かりませんか。

(事務局)

直接の回答にはなりませんが、不納欠損というものがあるんですけども、保険料を賦課してから2年を経過したものが不納欠損という形になるんですけども、令和5年度は人数が142人で、欠損額は604万6千円でした。

(委員長)

2年で時効になっている人が142人出ていると、それが多分繰り返し展開されている人になる可能性がありますか。

(事務局)

やはり滞納する方は、同じ方ってということもありますし、やっぱり、そのときの(経済的な)事情によっても、変動することもあります。

(委員長)

100人前後ぐらいは、そういう人たちがいるってということですね。
ほかありましたらどうぞ。

(委員)

8ページですね、介護認定審査会についてお尋ねしたいですけど。取りあえずですね、江南市の要介護認定の審査期間は平均的にどれくらいなのでしょう。介護保険法

では一応 30 日となっていますね。実際はかなり期間に幅があるんですね。江南市はどれくらいですか。

(事務局)

はい。令和 5 年度の申請日の基準でいきますと、江南市は、申請から判定まで 39. 2 日になっております。

(委員)

大体、全国平均と同じくらいですね。全国平均は 40.2 日です。30 日は超えていますね。それからちょっとそれとは違いますけれど、介護保険制度が始まって大体 25 年経ちますよね、この認定審査会のあり方っていうのは、私のあくまで個人的な意見でございますが、いわゆる今の AI が普及する時代にですね、例えば変更申請の数が、令和 3 年度が 654 人、令和 4 年度が 719 人、令和 5 年度が 750 人、やっぱりかなりの人件費も食ってますし、調査やって、審査会もやって、リモートも行っているようですが、非常に、やっぱり、これはあくまで私の拡大解釈なんですけども、やはりこれをコンピュータに任せて、ある程度本当に難しいケースだけ審査会にかけたほうが、そういう方向も考える時代になったと思うんですね。例えば、今の介護認定審査会に対して、そういう方向も考える時代じゃないかと思うんですね。その辺のところ、もう少しね、効率的にできないかというところがあるんですね。よろしくお願いします。

(事務局)

認定審査会の在り方につきましては、今後認定申請される方も増えると見込まれてる中、国の方も AI の活用とか、介護情報基盤、そういったもので主治医意見書の提出の時とか、いろいろとしていかななくてはならないということ把握はしております。江南市としましては、財政状況等もございまして、審査会のシステムを活用した方法についていろいろ検討はしておりますが、どういった形で、申請から結果までの期間が早くなるか、効率がよくなるかというところは検討しているところでございます。

(委員長)

ほかよろしいでしょうか。

私のほうから、資料 1 の 1 ページのところ、これは介護保険に直接とはならないですけど、人口動態の関係で、大体傾向がつかめれるようになっているんですけど、40 歳から 64 歳の人口は増えてて、65 歳以上の人口は若干減ってるっていうのは、ちょっと全般的には、総人口自体はほんの少しずつ減ってるっていう感じなんですけど、要するに労働力人口を上げる介護保険料を払う人たちは、意外と江南市は転入で増えてるといふふうに見えていいんですかね。これから。これが落ちついた傾向としてあるのかどうかということですけど。総人口はほんの少しずつ減っていますけど、40 歳から 64 歳人口

はほんの少しずつ増えてる。65歳以上人口は、少しずつ減ってるというような感じで来てるんですね。ただある面でいくと、要支援者が増えるというような形は納得がいくんですけど、こういう傾向が多分転入がですね、転入してくる人が増えてるっていうことで理解していいんですかということですけど。

(事務局)

40歳から64歳の方の人口のほうの増につきましては、ちょっときちんとした根拠は確認できておりませんが、江南市のほうですね、戸建てなどが増えているような状況もありますので、そういったところも一つ、可能性があるのかなということですよ。

あと65歳以上の人口につきましては、全体的に減ってはいるんですけども、75歳以上の方が増えていくという形では、そこは変わらず、今後も続いていくというふうを考えております。

40歳から64歳でございますけど、先ほど申しましたように、人口動向の詳細の分析というのはちょっとできておらず、先ほど申し上げたとおりなんですけれども、私もこれで60歳になります。

40歳から64歳の市の、いわゆる今の市の人口ピラミッドで見て言いますと、ちょうど私の世代が始まりぐらいですけども、団塊ジュニアと言われる世代ですね、ここがいます。私の世代から少し10年、15年ぐらい下のところまで、団塊ジュニアと言われる世代がいます。

ここが、人口的には非常に多い部分でありますので、ここの40歳から64歳の人口が若干増えるか、ほぼ横ばいっていうような状況で今推移をしているというふうには考えています。

ただ、団塊ジュニア世代のさらに下ですね、さらにジュニアっていうのはもういないことがはっきりしてます。今は20代、20代からから39歳。そこはもう、これまでどおりにはいないことははっきりしてますので、今後まださらに長いスパンの話にはなりますけども、40歳から64歳という、この介護保険を支える世代の人たちというのは、長い目で見れば、確実に減少していくというのは、言えると思います。

(委員長)

今後さらに減ってくるね。

ほか。よろしいでしょうか。

なければ、もう少し議論も出てますけど、(2)地域包括支援センターの事業計画進捗状況、評価、次期計画について、ここでの質疑に移りたいと思いますけど、ご意見等ありましたら、どうぞ。

(事務局)

すいません。先ほど委員のほうから、民生委員さんと区長さんの連携というところのお話を頂戴しました。

地域ふくし課の業務としましては、地域の地域づくりというところがございますので、これについては毎年地域福祉懇談会を開催しまして、一般市民の方、区長、民生委員さんの方を、ご案内する中で地域の課題、その辺の話し合いの場などを設けて進めているところでございます。

いずれにしましても今後地域と一緒に行政が連携してやっていくというのは、必要なことだというのは重々認識をしておりますので、今後ともまた継続してやっていきたいなと思っておりますので。すいません、補足説明とさせていただきます。

(委員長)

先ほど提案でもありましたように、重層的な支援体制ということで考えた、かなり重要な課題ですので、ぜひ具体化をしてください。ほかよろしいでしょうか。

(3) 江南市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部改正について

(委員長)

なければ、議題(3)の江南市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部改正について、事務局のほうから説明をお願いします。

(事務局) 説明

《資料3、参考資料3-1》

(委員長)

はい。

国のほうから、要するに職員が集まらない、集まらないところが出ているので柔軟な対応ができる緩和策が出されて、それを規定で1年以内にそれぞれのところで具体化しなさいというものがあります。したがって、それに即して改正はするけれども、現在配置されている職員はいじらない。特例的な状況に当たらないだろうということによりよくお願いしますということでもあります。

特に問題はないと思いますので、よろしいですか。

(委員)

これは採決は必要ないんですね。

(委員長)

これ（採決）は必要なの。

これは審議会で了解したということによろしいですか。

（委員）

それだけでもいいならいいですけども。

（事務局）

今回はですね、条例改正に至る、行う前にですね、皆様のご意見を賜る場ということで、上げさせていただいたものとなっておりますので、何かのご議決ですね、そういったところで決をとっていただく必要はございません。

（委員長）

（必要）ない。

はい。よろしいですかね。国の法的な指示がありますので、それに従わざるを得ないけど、しかし、特例的な状況は、江南市ではしないということで、現在のままでという形でいきたいと思います。よろしいでしょうか。

（４）地域密着型サービス事業者の公募結果について

（委員長）

それでは、次の議題のほうに入ります。（４）地域密着型サービス事業者の公募結果についてということで、事務局のほうから説明をお願いします。

（事務局）説明

《資料４》

（委員長）

はい。これもよろしいですか。

来年度検討しますってということで、実際にやっていただくということによろしいですか。

それでは、これはよろしいですね。

（５）介護給付費通知送付の廃止について

（委員長）

次の議題に移らせていただきます。（５）介護給付費通知送付の廃止について事務局のほうから説明をお願いします。

（事務局）説明

《資料 5》

(委員長)

これは、広報 3 月号で掲載するっていうことで、もう 3 月分は発送を取り止めるっていうことですね。年度途中ですけども、特に支障はないであろうということですね。

(事務局)

はい。もう 3 月分の発送から、もう廃止ということですよ。

(委員長)

どうぞ。

(委員)

この通知書なんですけど、給付額が適正かどうかは行政がやればいいことであって、利用者が適正かどうか判断を求められても、難しいと思います。やっぱり混乱を招く資料ではなかったかなと私は思っております。

(委員長)

はい、よろしいですね。

不正請求に対する議論っていうのは江南市に任せてということですね。

はい。ほかになれば、提案の方向の意見ですので、よろしいですか。これも国の通知文の具体化ということで、特に江南市では、3 月の広報に掲載して、年度途中だけでも、3 月から実施する。

(6) 介護予防支援事業者の指定について

(委員長)

それじゃ、次の議題に移らせていただきます。(6) の介護予防事業者の指定についてということで、事務局のほうから説明をお願いします。

(事務局) 説明

《資料 6、参考資料 6-1》

(委員長)

新たな指定の区分ができてというところで、指定の申請があつて、それを認めたいということですね。これもよろしいでしょうか。

特に議論はないと思いますので、了解をしたいと思います。

(7) 介護保険料等における基準額の調整について

(委員長)

それでは次の議題に入ります。(7) 介護保険料等における基準額の調整についてをお願いします。

(事務局)

議題(7) 介護保険料等における基準額の調整についてをご説明いたします。

《資料7、参考資料7-1～2》

(委員長)

修正部分は、それぞれの段階区分のところの対象者のところに、ゴジックで書いてある部分なんです。80万9千円以下の方っていう、これが新たに加わるということで、第1、第2、第4、第5段階のところ。施行日は4月1日及び8月1日。これも、国の基準の施行令改正に伴う改正である。よろしいでしょうか。特に、施行令に伴うということで、そんなに影響は出ないんですよね。大きく変わる感じですか。ぎりぎりの人とか。

(事務局)

はい。影響が出ないように改正するものですので、影響はないと思われま

(委員長)

それでは、よろしいでしょうか。

これで、今日の議題2の(1)から(7)まで審議は終わりたいと思います。

3 その他

(委員長)

それじゃ、その他のところに移らせていただきます。

事務局のほうからありましたらどうぞ。

(事務局)

はい、それではまず一つご報告をさせていただきます。

障害者控除対象者認定書の記載誤りについてでございます。

例年、確定申告や市県民税申告の時期に先立ちまして、障害者手帳を取得されていない場合でも、65歳以上で介護保険の要介護認定を受けている方で、身体の障害や認知症の状態が一定の基準に該当する場合に、障害者に準ずるものとして、障害者控除対象者認定書を送付しています。今回、令和7年1月28日火曜日に発送いたしました、障害者

控除対象者認定証につきまして、30日木曜日に、対象者住所欄に誤った住所が記載されているという市民からの問合せを受けまして、記載誤りがあったことを把握いたしました。そうした認定書の件数は3,700件で、住所記載の誤り、また、障害者か、特別障害者の区分の誤りが数件ございました。改めて昨日、2月3日月曜日に、正しい内容の認定書とおわび文を送付をさせていただきました。住所の記載誤りにつきましては個人情報保護に関する法律に基づき、本人への通知も行いました。

今回このような記載誤りが生じた原因でございますが、データの誤りに気づかずに認定書を作成したこと、また、内容を確認する体制が整っていなかったことによるものでございます。適正であるべき事務処理のミスにより、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くおわび申し上げます。

今後再発防止と、適正な事務の処理を徹底してまいります。申し訳ございませんでした。

もう1件、ご報告でございますが、本年度の審議会は、本日の会議で最後となります。また、皆様の委員任期は令和7年3月31日をもって、満了を迎えます。

令和4年4月から委員に就任していただき、この3年間、本市の介護保険及び高齢者福祉行政の推進にお力添えをいただきましたことを改めてお礼申し上げます。

ありがとうございました。

なお、当審議会で、長年委員長として円滑な議事運営にご尽力いただきました、委員長さんにおかれましては、今期をもって、ご退任をされるということを伺っております。

退任に当たりまして、委員長さんにご挨拶をいただければと思いますのでよろしくお願いたします。

(委員長)

75歳を過ぎまして、体力もあるんですけども、やはり目が悪くて、それを補うために、いろんな文献とかいろんな資料を読む気力が大変になってきているという状況で、ちょっと、ほかの分野の仕事もしているということもありまして、辞退を私のほうで、申し出させていただきました。長い間、皆様のご協力、支えによって、何とかこなせたんじゃないかというふうに思っております。本当にありがとうございました。

多分、この審議会の位置はですね、今後も重要性が生まれてくるだろうというふうに考えておりますので、皆さんの今後の旺盛な審議を期待しているところであります。どうも本当に長い間ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。事務局を代表しまして、ふくし部長からお礼を申し上げます。

(ふくし部長) お礼の言葉

(事務局)

それでは以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。
本日はありがとうございました。